

<ウラジオストク 市内レポート>

ウラジオストクの街並みは近代の趣を未だに色濃く残した街である。かつてこの地には日本人街があり、その名残をうかがわせる建物が幾つかあった。市内には至る所に日本製の中古車が道路を行き来していた。交通量が多いうえに日本ほど交通整理がされてなく信号の数が少なかった。その為近所にあるスーパーに行く際は「まだか、まだか」と道路に空きが訪れるのを待っていた。大学周辺にあるスーパーは商品の品数も多く、日本のカップラーメンやレトルト食品、調味料、お菓子が売られていた。しかし、輸入品はロシアの製品と比較すると高めの値段だった。そして、商品を購入する際は1000ルーヴルや5000ルーヴル等の大きなお札で払う際、店の店員は「細かい金を出してくれ。」と要求する時がある。この時小銭があるなら素直に出し、無いのであれば少々困った表情をすれば大きな紙幣でも商品を支払える時もある。こうした日本ではあまり起こらないようなことがロシアでは日常となっているので私たちは定期的にバスに乗る際や屋台などの支払いで小銭を作っていた。

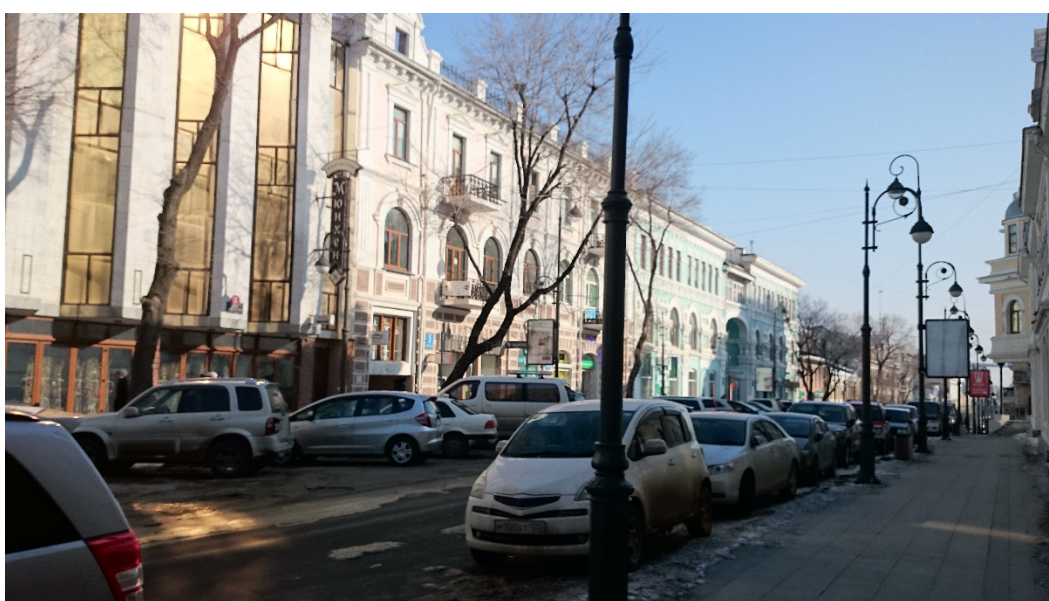
市内の中央広場では毎月大きなイベントが開催されていた。ライブやクリスマスイベントの会場に使用される。そこでは毎週土曜日には市場が開かれる。肉、魚、野菜、パン、乳製品がスーパーより遥かに安い値段で手に入る。その中央広場周辺にはカフェ、服屋、書店、理髪店、デパートが多く立ち並んでいる。特に私たちは市内中央のバスターミナルに隣接しているクレーバーハウスというデパートにはほぼ毎週のように散策していた。そのデパートには日用品はもちろんのこと、化粧品やチョコレートや紅茶のといった日本への帰国の際にお土産に適した雑貨が多くある。加えて地下には大学周辺のスーパーより品揃いが良いスーパーもある。クレーバーハウスの近くには日本円をルーヴルに替えられる換金所がある。大学の内部にも換金所はあったが街の換金所でのレートが高いので私たちは専ら街の換金所を利用していた。日本円二万以上の両替はパスポートが必要になるので注意が必要である。

大学周辺のバス停から中央広場までのバス停を乗り換えて、20分弱で中国人市場に着く。中国人市場では食品や衣類、スニーカー、ブーツ、コート等が街で売られているよりずっと安い価格で販売されていた。購入する前に買うか買わないか曖昧な反応をすれば店によっては値引きをしてくれることもある。更に飲食店も多くあった。中華料理店や韓国料理店が幾つかあり毎月、そこで外食をしていた。しかし多くの人が行き交う場所なのでスリやたかりに遭わないように度々、警戒していた。

ウラジオストクではチョコレートが多く売られていて、お土産としてしばしば購入されている。中央広場から北約1キロの場所にあるプリステージ（Престиж）というチョコレートを製造、販売している店がおすすめである。ПК（ペーカー）という文字のロゴマークが目印である。この店では小さいチョコの量り売りまでしているので大変種類が豊富な店である。



ルースキー島連絡橋。大学から徒歩15分のところにある展望台からの景色



モダンな建物が多数ある市内。両替所付近にて